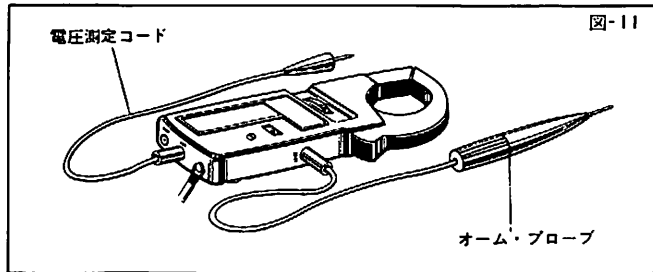


[注意] 抵抗を測定する前に必ず被測定回路に電圧がかかっていない事を確認してください。電圧が誤ってかかった際にメータの損傷を防ぐためオーム・プローブ内にヒューズが取り付けられています。

1. 電圧測定コードの赤・黒いずれか一方をCOM端子に挿入してネジ込み、固定してください。側面のOHM端子にオーム・プローブをネジ込みます。[図-11]



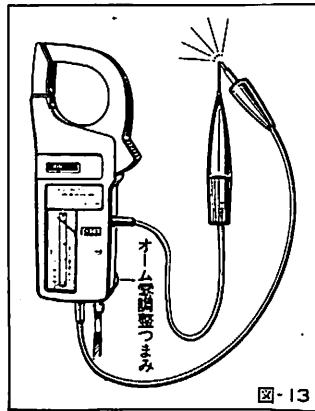
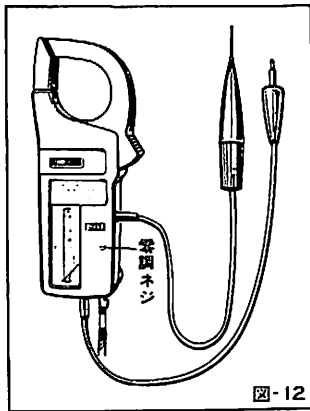
2. 「レンジ切換つまみ」でスケール窓に150Vのスケールを出してください。

3. 無限大位置の調整

電圧測定コードとオーム・プローブをオープンにした時指針は抵抗計スケールの“∞”を指示いたします。必要ならば指針の零調ネジを使用してください。[図-12]

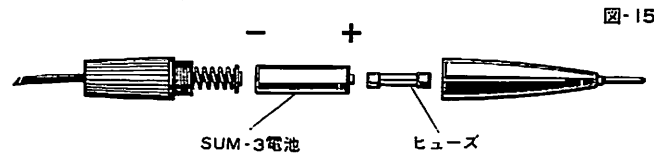
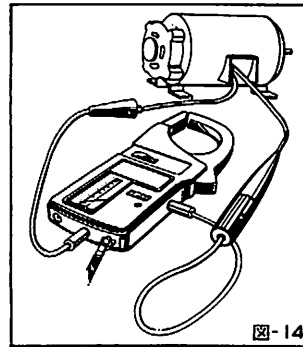
4. ゼロ位置調整

電圧測定コードとオーム・プローブをショートさせ[図-13]、本器右側面のオーム零調整つまみを回して抵抗スケールの“0”に指針を合わせます。



[注意] オーム零調整つまみを回しても指針がゼロ位置まで振れない時にはオーム・プローブに内蔵されている電池を交換してください。

5. 測定は図-14のようにオーム・プローブと電圧測定コードの一本を使用してください。
6. 抵抗計スケールの読み方  
抵抗計のスケールはスケール窓左側に表示されています。ゼロ記号はスケールの一番上にあり、一番下には無限大の記号“∞”があります。
7. 電池及びヒューズの交換方法  
オーム・プローブの構造はネジ込式になっていますので時計方向の逆に回すと[図-15]のように取り外せます。電池はSUM-3をお使いください。



[注意] ヒューズの規格：0.5A、消弧剤入り  
ヒューズの交換の際は代理店にてお求めください。

●修理について●

下記のいずれかに、ショック等で本体が破損しない様、充分な梱包を施して、ご送付ください。

●〒152 東京都目黒区中根2-5-20 共立電気計器(株)  
第一営業部  
電話03(723)0131(大代表)・03(723)7021~2(直通)  
テレックス 246-6703

●代理店●

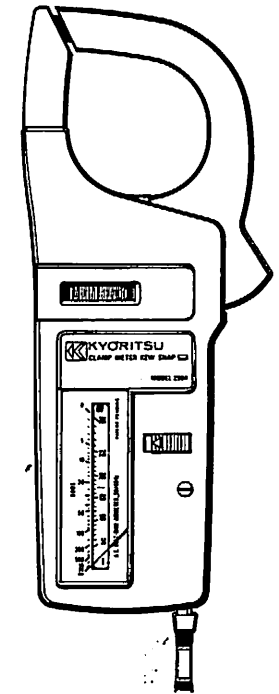


共立電気計器株式会社

〒152 東京都目黒区中根2-5-20  
電話03(723)0131・テレックス246-6703  
工場/東京・埼玉・宇和島・愛媛(JIS表示認可工場)

取扱説明書

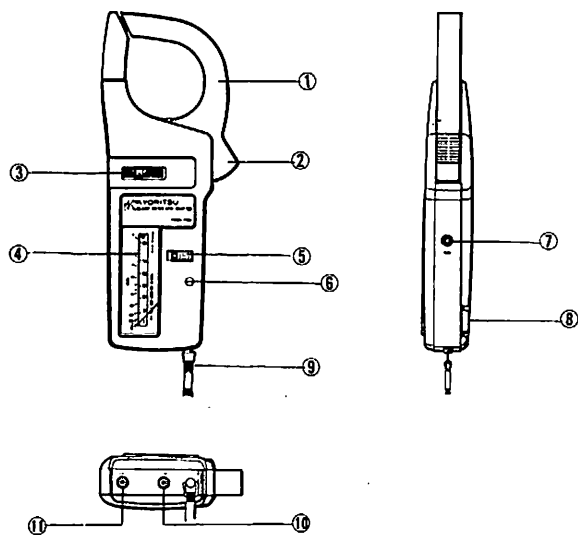
50Hz/60Hz 共通



交流電流・電圧・抵抗測定器

**キョーストポ9**  
MODEL 2904

世界120数カ国に広く市場をもつ共立は、永年の豊富な経験と実績に基づき世界各国のニーズをここに結集しました。使用性・信頼性は勿論のこと、より高い安全性への世界的転換傾向のなかで、“万が一の操作ミスによってでも人体に危険を及ぼさない”をモットーに、特に安全性には充分留意した設計です。



- ①トランスコア ②トリガ ③レンジ切替つまみ ④スケール窓
- ⑤指針止め装置 ⑥零調ネジ ⑦OHM端子 ⑧オーム零調整つまみ
- ⑨落下防止バンド ⑩COM端子 ⑪VOLT端子

仕様

▶標準測定範囲

- 交流電流 10/30/100/300/900 A [5レンジ]
- 交流電圧 150/300/750 V [3レンジ]
- 抵抗 2 KΩ (中央値25Ω) [1レンジ]

▶精度

- 交流電流 } 最大目盛値の±3%以下
- 交流電圧 }
- 抵抗 目盛長の±3%以下

▶絶縁耐力 AC 2,500V/1分間

▶外形寸法 227×73×33mm

▶重量 約460g

▶被測定導体径 最大φ 52mm

▶周波数 50Hz/60Hz共通

▶付属品 電圧測定コード

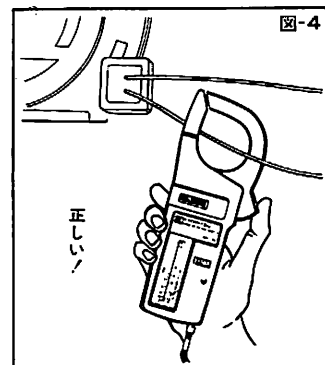
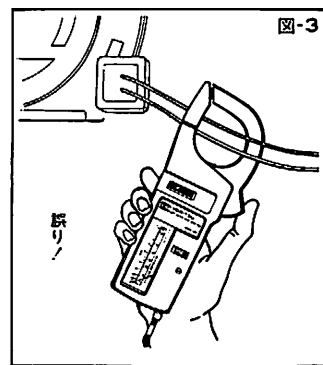
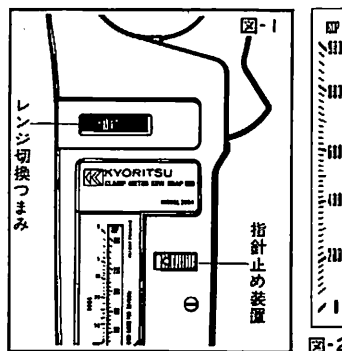
抵抗測定オームプローブ

(0.5A消弧剤入ヒューズ・SUM-3電池内蔵)

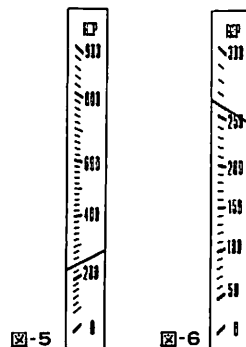
携帯用ケース・取扱説明書

[注意] 電流または電圧を測定する前にオーム・プローブが、本器に取り付けられていないことを確かめてください。オーム・プローブは5ページの説明のように本テスタを抵抗計として使用する場合にのみ取り付けてください。

1. 「指針止め装置」を右に動かして指針が自由に振れる状態にしてください。 [図-1]
2. 「レンジ切替つまみ」を回転させて電流の最高レンジ、即ち900 Aをスケール窓に出してください。 [図-2]
3. 本器右側面に突出している「トリガ」を押して「トランスコア」を開いてください。
4. 導線の一方をトランスコアではさみこんでください。トリガを押している指の力を抜きトランスコアを閉じ指示値を読んでください。導線は必ず一本だけをはさんでください。 [図-3] 二本はさむのは誤りです。 [図-3]

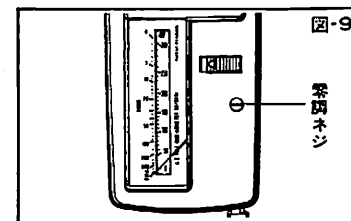
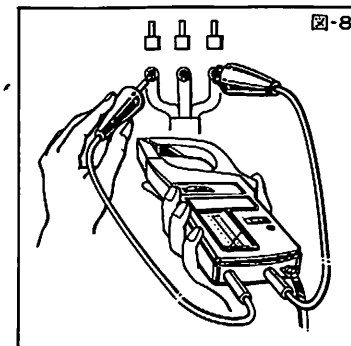
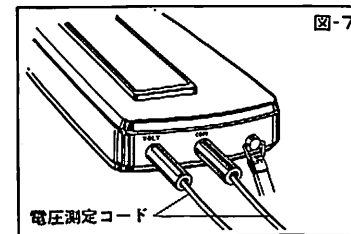


5. もし、指針の振れがスケールの半分以下でしたらまだ読まないでください。 [図-5]
6. レンジ切替つまみを次の電流レンジに回し、指針がスケールの半分以上に振れるようになったら読みとってください。 [図-6]



[注意] 3ページ上部の通りにまずオーム・プローブを外してください。

1. VOLT端子に赤、COM端子に黒の電圧測定コードを挿入し、ネジ込み固定してください。
2. 「レンジ切替つまみ」を回転させて電圧の最高レンジ、即ち750 Vのレンジをスケール窓に出してください。
3. 電圧測定コードの赤・黒、いずれか一方を被測定回路の一方につなぎます。次に他方の測定コードで回路の他端に触れてください。 [図-7]
4. もし指示値が300 V以下の場合はレンジ切替つまみを回して、300 Vレンジのスケールを出し、そのスケール上で読みとってください。また、150 V以下の場合は同様手順で150 Vレンジに切換えて指示値を読みとってください。



ゼロ調整  
最大の精度を得るために指針は零調ネジにより正しくゼロ位置にセットされていなければなりません。 [図-9]

[注意] 電圧測定コードは下記の構造になっています。絶縁体の矢印箇所を押すと先端のピンがはずれますので、クリップして測定したい場所はピンをはずしてご使用ください。

